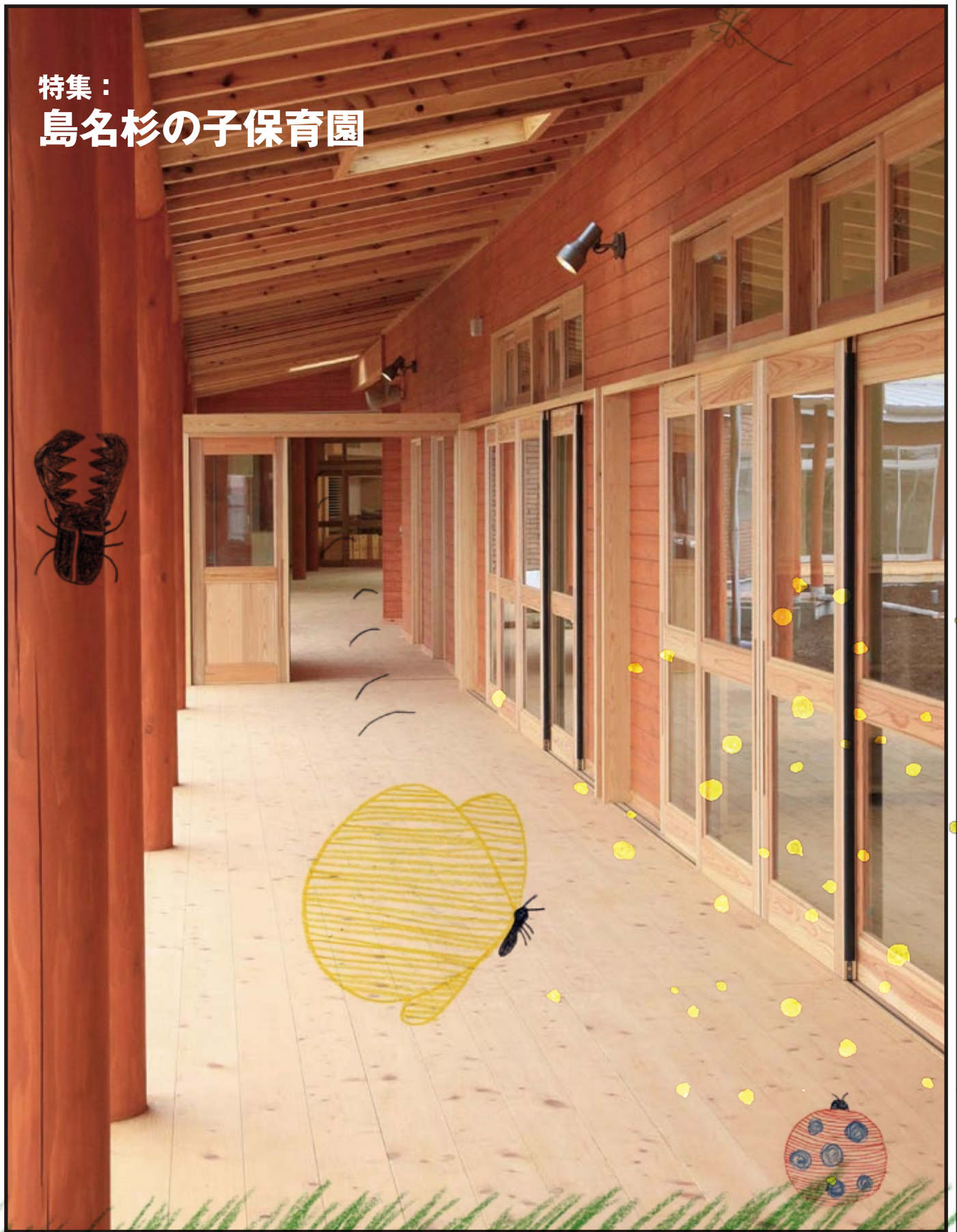
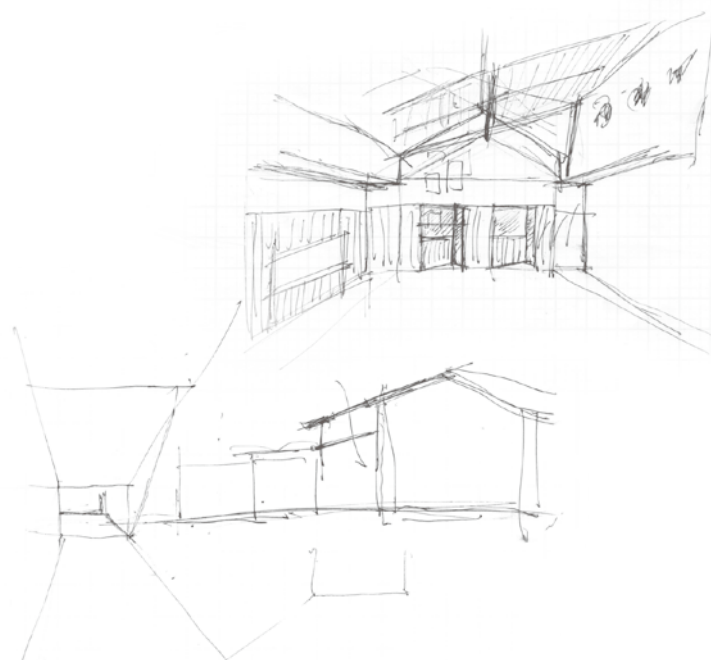


特集： 島名杉の子保育園



創造性に溢れる子供たちに
多様な木の空間で
茨城の樹の世界観を
肌で感じながら育てて欲しい



遊戯室兼ランチルームにて

- 1 園舎のシンボルツリーとなる樹齢100年の八溝杉の磨き丸太を中心とした木製螺旋階段
- 2 園庭に繋がる南面に向かって天井を高くし自然の光と風をたくさん取り入れる幼児保育室
- 3 アートに触れ合える空間として、子供達の作品や芸術品を展示するギャラリー廊下
- 4 安全かつ使いやすさに配慮したデッキテラスの階段。日向ぼっこに最高の空間
- 5 吹抜けを通して2階部分との繋がりを持つ一時預り室。吹抜けには杉丸太梁が見える
- 6 トイレに行くのが楽しくなる様に、木のぬもりと曲線のやさしさをういた乳児用トイレ



地域性を活かした自然環境との
共生を実感できる
特徴ある園舎づくり

TX開通により園児数が増える中で耐震問題や老朽化、手狭になったこと等により園舎の建てかえが計画されました。

保育園の将来像をどう見定め具現化し社会のニーズに答えていくか、先生方と設計者で様々に検討しました。結果、地域性を活かした自然環境との共生を実感できる特徴ある園舎づくりとなりました。

先生方との話し合いを通して、創造性豊かな子供たちを、年齢で区切るのではなく子供の個性や創造性を大切にした空間とすること、子供の健康や環境問題へ配慮すること、地域子育ての拠点としての機能性と一体化が設計のテーマとなりました。

空間構成(可変的な空間)

各保育室は乳児を除き、壁で区切らず可動間仕切りとして、子供たちの多様な行動に対応したゾーン分けとして設計しました。保育室はオープンとし、デッキテラス、曲がりくねった壁や太い杉の柱、狭いコーナーなど変化の多い空間で構成し、子供たちの創造力や情操を育む空間を目指したものとなっています。

エコロジーな園舎(木の空間)

環境保全、温もりのある空間、伝統技術の継承の面からこの建物は木造で作りました。茨城県産木材(檜・八溝杉)を主に使用しています。テラスや螺旋階段には建築空間のシンボルとして樹齢100年の杉丸太を使用しました。

エコ・マテリアル(建物は第3の皮膚)

子供達の身体に安全で安心な空間であること、自然素材であることに徹底し、柿渋、珪藻土、抗酸化リバス工法を取り入れました。創造性に溢れる子供たちに多様な木の空間で茨城の樹の世界観を肌で感じながら育って欲しいと願っています。



園庭より園舎を眺める。園舎はアーススカラーでまとめ柔らかいイメージ。中央共用部より左が乳児ゾーン、右が幼児ゾーン。



木のぬくもりあふれるデッキテラスは第2の園庭。子供達が自由に動き回り、全身で四季の変化を感じることができる。



デッキテラスの天窓。軒の深い部分でも天窓から自然の光を取り入れられる。



独立性を保ちながらも機能的な繋がりが持つ乳児保育室。身体に安全で安心な空間であることに最も配慮。



地域の子育ての拠点となる子育て支援センター。多様なプログラムに対応できる機能を持ち合わせている。



幼児保育室は、可動式間仕切りや可動式家具等で保育空間が自由に設定。将来の保育環境変化への対応にも配慮している。

DATA

工事名称 / 島名杉の子保育園改築工事
 事業主 / 社会福祉法人 いなほ会
 所在 / 茨城県つくば市
 用途地域 / 未指定(市街化調整区域)
 敷地面積 / 3767.21㎡(1139.58坪)
 建築面積 / 1081.63㎡(327.19坪) 建蔽率 / 28.72%(許容60%)
 延べ床面積 / 1225.24㎡(370.06坪) 容積率 / 32.53%(許容200%)
 耐火建築物 / 準耐火建築物(イ)
 構造・用途 / 木造(在来工法)2階建て・保育園
 竣工 / 2011年3月
 施工 / ライフ・プロジェクト(株)



有限会社吉田建築計画事務所

本社 / 〒315-0112 茨城県石岡市部原786-2 tel.0299-43-2051
 つくば事務所 / 〒305-0047 茨城県つくば市千現2-1-6 tel.029-854-0203
<http://www.iezukuri.co.jp/>

吉田 良一

1967年茨城県生まれ。一級建築士。
 マトリックス都市建築設計事務所を経て、
 1993年吉田建築計画事務所設立。